

一般社団法人 石川県鉄工機電協会との連携事業 ～ MEX 金沢 2024 (第 60 回機械工業見本市) への参加～

団体名・代表者名 ● 新ゼミナール・新 広昭 (経済学部・教授)、野林ゼミナール・野林晴彦 (経済学部・教授)、
中尾ゼミナール・中尾公一 (経済学部・教授)、神崎ゼミナール・神崎淳子 (経済学部・准教授)、
鈴木ゼミナール・鈴木理彦 (経済学部・准教授)

はじめに

2024年5月17日～18日、標記5つのゼミナールの2年次、3年次の学生が、石川県産業展示館で行われたMEX 金沢2024に参加した。MEX 金沢は、石川県の基幹産業である、ものづくり企業の振興発展を目的に(一社)石川県鉄工機電協会が主催し毎年開催しているもので、石川県をはじめ全国から200社を超える企業が出展している。

本事業は、本学と石川県とで2023年12月に締結した「学生の県内定着促進に関する協定」に基づいた事業として位置付けている。

活動内容

参加学生は各ゼミナールの活動テーマに沿ったヒアリング調査などに取り組む一方、参加企業の3社以上を訪問し、会社説明を受けた場合に記念品が頂けるという「学生特別企画」にも参加し、地元のものづくり企業への理解を大いに深めた。

参加学生の感想

本事業の成果のひとつとして学生の感想の要約を記載する。

- 各企業のSDGsへの取り組みについて調査したが、予想以上にSDGsに対する意識が高いことに感銘を受けた。自分自身も、今後の研究やキャリアにおいてSDGsを意識して取り組むことの重要性を強く感じた。
- ものづくり企業であっても、文系の人たちが“事務や人事、営業など”で会社を支えているということを知った。今までは、就職先としてあまり考えていなかった業種だったが、選択肢として検討していきたいと思った。
- 魅力のある人材とはどんな人かということを企業の方に質問し、チャレンジ精神や問題解決能力が必要だとわかった。これらはどの仕事をするのにも大切になってくることだと思うので大学生の間に身につけられるようにしたい。

- 最も印象的だったのは、「地域との具体的なつながりがあれば教えてください」という質問をしたところ、スマート農業分野で地域との密接な関係を築いていることをうかがった時であった。農業は日本経済や北陸経済を支える大切な産業であり、またそれを機械工業の最先端技術がサポートしていることをあらためて認識し、感銘を受けた。



今後の課題、展望

MEX への参加をきっかけとして、出展企業に就職する学生も複数出てきており、協会側の人材確保ニーズと学生側の進路選択の幅を広げるというニーズとがうまくかみ合いつつあることを感じる。今後とも多くのゼミの参加を得て本事業を継続することにより、学生の地元定着が図られていくことを期待したい。